

実践報告

総合病院小児病棟のプレパレーション定着を目指した 検討会の取り組みと課題

The Approach and Issue of the Study Meeting Aimed to Promote
the Preparation Fixing in the General Hospital Children's Ward

平田 美紀¹⁾*, 流郷 千幸¹⁾, 鈴木 美佐¹⁾,

Miki Hirata, Chiyuki Ryugo, Misa Suzuki,

古株 ひろみ²⁾, 川端 智子²⁾, 玉川 あゆみ²⁾

Hiromi Kokabu, Tomoko Kawabata, Ayumi Tamagawa

キーワード 総合病院, 小児病棟, プレパレーション

Key Words general hospital, pediatric ward, preparation

抄 録

背景 小児看護学領域では、医療処置を受ける子どもへのプレパレーションが注目されてきているが、総合病院では看護師の子どもへの権利を保障した看護の意識が低いことが推察された。そこで、総合病院において子どもの権利およびプレパレーションに関する看護師の認知向上と定着が必要であると考えた。

目的 平成23～26年度までのプレパレーション検討会の開催と、総合病院小児病棟のプレパレーションの定着に向けた課題を明らかにする。

方法 平成23～26年度に開催したプレパレーション検討会の文書記録、および本検討会の結果に関する学会報告から、検討会の取り組み内容を明らかにし、看護師のプレパレーションの認知の実態、プレパレーションの定着を進めるために必要な課題について分析する。

結果・考察 プレパレーションに関心がある看護師を対象とした検討会は、参加者のモチベーションが高く、学習意欲が高い環境で開催できた。検討会はビギナーコース、アドバンスコースがあり、参加者に応じたサポートにつながった。また、検討会で日々の看護をリフレクションすることでプレパレーション定着に向けた自己の課題を明確にすることができたと考える。

I. 緒 言

わが国において、子どもの権利条約が批准されて以降、小児看護学領域では医療処置を受ける子どもへのプレパレーションが注目されてきた。プレパレーションとは、病気、入院、検査、処置などによる子どもの不安や恐怖を最小限にし、子どもの対処能力を引き出すために、その子どもに適した方法で心の準備やケアを行い、環境を整えることである（及川、2012）。医療処置を受ける子どもに関する文献は、増加傾向にあり（平田、2013）、絵本などの媒体を活用したプレパレーション（石垣、2005；渡邊、2006；戸井、2008）や、医療処置を受ける子どもが安心を得るために母親がそばにいる必要性があること（細野、2010；平

田、2013）、また、母親がそばにいることで子どもは処置へ主体的に臨めること（吉田、2009）が報告されている。

近年、子どもの入院環境は総合病院において成人との混合病棟が多く、看護の対象が小児から成人までと幅広くなっている。入院や医療処置を受ける子どもに対する看護師の意識調査では、小児専門病院や小児病棟の看護師に比べ、混合病棟の看護師は子どもの権利を保障した看護の意識が低いことが明らかになっている（小林、2008）。したがって、総合病院では混合病棟や所属のローテーションなどの影響で、看護師の子どもへの権利を保障した看護の意識が低いことが推察され、総合病院において子どもの権利およびプレパレーションに関する看護師の認知向上と定着が必要で

1) 聖泉大学 看護学部 看護学科 School of Nursing, Seisen University

2) 滋賀県立大学 人間看護学部 看護学科 School of Human Nursing, The University of Shiga Prefecture

* E-mail hirata-m@seisen.ac.jp

あると考えた。

そこで、全国の小児の入院病棟をもつ総合病院に勤務する看護師を対象としたプレパレーションに関する認知調査の実施、およびプレパレーションに関する認知向上のための検討会の開催を目的として取り組んだ。今回は、平成23年度から平成26年度までのプレパレーション検討会の開催について、総合病院小児病棟のプレパレーションの定着に向けた今後の課題について報告する。

Ⅱ．方 法

平成23～26年度に開催したプレパレーション検討会の文書記録、および本検討会の結果に関する学会報告から、検討会の取り組み内容、経過、参加対象者、参加者数、参加者の発言を明らかにし、看護師のプレパレーションの認知の実態、プレパレーションの定着を進めるために必要な課題について分析する。

Ⅲ．結 果

1．平成23年度の活動内容

平成23年度は、A 県内の小児の入院病棟においてプレパレーションが実施されているかどうかを把握するために、小児病棟に勤務する看護師を対象に看護系大学の2 大学から小児看護学を専門とする研究者とともに「プレパレーション学習会」を開催した（表1に示す）。参加者は、総合病院小児病棟に勤務する看護師3 名と小児専門病院に勤務する看護師1 名であった。内容は、「小児の採血場面におけるプレパレーションの実施について」とし、看護師と研究者によるディスカッショ

ンを行った。その結果、総合病院小児病棟では、看護師のプレパレーションに対する認知は低く、さらにプレパレーションが継続されていない現状が明らかとなった。また参加した看護師が、病棟にプレパレーションを定着させたい思いを持っていても、スタッフへどのように伝えればいいのかという困難感を抱いていることも明らかとなった。以上のことから、A 県内の総合病院に勤務する看護師のプレパレーションの認知向上を図るためには、プレパレーションに関するディスカッションを含めた学習会を引き続き行うことが必要であると考え、次年度への課題とした。

2．平成24年度の活動内容

平成24年度は、引き続き A 県内の総合病院において看護師のプレパレーションの認知向上を図るために、総合病院2 施設の小児病棟および小児科外来に勤務する看護師を対象に「プレパレーション学習会」を開催した（表2に示す）。参加者は、総合病院 A から小児病棟および外来に勤務する看護師19名、総合病院 B から小児病棟および外来に勤務する看護師9 名であった。内容は、看護系大学の研究者からプレパレーションに関する情報提供と、総合病院小児病棟および小児科外来のプレパレーションの現状についてディスカッションした。その結果、外来及び病棟の看護師は、子どもの権利やプレパレーションの研究報告の情報提供を受けてプレパレーションについて正しく理解できたという反応が得られた。しかし、プレパレーションを実施するためにはスタッフへの説明や業務改善などが必要であり、すぐに実施できる現状ではないことが浮き彫りとなった。また、研究者らが病院を訪問して開催する方法は、時間

表 1 平成23年度 活動概要

開催回数	目的	参加対象者	所属施設(総床数)	参加者 人数	職種
1	小児の入院病棟の プレパレーションの実施状況の把握	総合病院・小児専門病院の 小児病棟の看護師	A病院(400床)	3名	看護師
			B小児専門病院（100床）	1名	看護師

表 2 平成24年度 活動概要

開催回数	目的	参加対象者	所属施設(総床数)	参加者 人数	職種
1	総合病院の看護師の プレパレーションの認知向上	総合病院の小児病棟看護師	A病院（400床）	19名	看護師
2			C病院（616床）	9名	看護師

調整等が難しく継続することに限界があるため、開催場所を看護系大学に変更し、プレパレーションに関心がある参加者を募ることを次年度への課題とした。

今年度の成果を、平成25年5月にメルボルンで開催された国際看護学会（ICN）および、平成25年7月に高知で開催された日本小児看護学会第23回学術集会にて発表した。

3. 平成25年度の活動内容

平成25年度は、A県内の総合病院のプレパレーションに関心がある医療者を対象に、「滋賀子どものプレパレーション検討会」を発足し、1年目ビギナーコース（以下、ビギナーコースとする）とした（表3に示す）。参加者の募り方は、A県内の医療施設の施設長宛てに、2大学の研究者を代表者および共同研究者としてプレパレーション検討会の目的、概要、開催回数等を記載した参加依頼文を送付し募集した。参加者は、病床数200～450床の3施設から、2～20年目の看護師7名と保育士1名の計8名の参加があった（表4に示す）。

検討会は1年間に4回研究者らが所属する看護

系大学で開催し、内容はテーマに基づく参加者と研究者とのディスカッションと、研究者によるプレパレーションに関する情報提供とした。第1回のテーマは「プレパレーション検討会に参加した思い」とし、研究者による子どもの権利とプレパレーションの定義の講義、子どもの採血場面における2歳の子どもの成功体験のDVD視聴とした。第2回のテーマは「プレパレーションの実施状況と効果」とし、研究者による「総合病院に勤務する看護師のプレパレーション認知に関する研究報告」とした。第3回のテーマは「プレパレーションを病棟に広める際の困難感」とし、研究者による「看護系大学の小児看護学で行うプレパレーションの講義、演習、実習の内容と学生の学びの成果」の紹介とした。第4回のテーマは「検討会の振り返り」とし、研究者による「総合病院に勤務する看護師の採血時の援助に関する認識の研究報告」とした。その結果、ビギナーコースに参加した参加者は、施設でプレパレーションの研究担当を担っていたり、学生の中から関心を持っていたなど、検討会を通してさらに深く学習したいという意欲が語られた。またそれぞれの施設の事例紹介では、参加者が施設で使用しているプレ

表3 平成25年度ビギナーコース 活動概要

回	時期	テーマ	研究者からの情報提供
1	6月	参加者の思い	・子どもの権利について ・プレパレーションの定義 ・母親が付き添う2歳児の採血場面のDVD視聴
2	9月	プレパレーションの実施状況と効果	・「総合病院に勤務する看護師のプレパレーションの認知」に関する研究報告
3	12月	プレパレーションを病棟に広める際の困難感	・看護系大学の小児看護学で行うプレパレーションの講義紹介
4	3月	検討会参加の振り返り	・「総合病院で子どもの採血に携わる看護師の採血に関する認識」に関する研究報告

表4 平成25年度参加者の属性

所属施設(総床数)	参加者人数	参加者内訳	
		職種	経験年数
A病院（400床）	3名	看護師	3年
		看護師	20年
		保育士	10年
D病院（450床）	3名	看護師	2年
		看護師	2年
		看護師	3年
E病院（200床）	2名	看護師	13年
		看護師	20年

パレーションツールを提示し、プレパレーションの方法や子どもの反応の紹介を行った。ディスカッションでは、プレパレーションを取り入れようとしてもスタッフの意識統一ができずツールが活用されていないなどの実態が語られ、総合病院という類似した環境での困難感を参加者同士で共有することができた。また参加者が、検討会で得た情報を参考に、主体的に勤務する病棟での勉強会の企画や、新たにツールを作成するなどの変化がみられた。

今年度の成果を、平成26年11月に名古屋で開催された第34回日本看護科学学会学術集会にて発表した。また、「プレパレーション検討会に参加した総合病院の小児病棟の看護師の認識の変化」として論文にまとめ、聖泉看護学研究第4巻1-10頁に掲載された。

4. 平成26年度の活動内容

平成26年度は、新たにA県内の総合病院のプレパレーションに関心がある医療者を対象にビギナーコースを開催した。さらに平成25年度にビギナーコースを終えた参加者が、その後も施設でのプレパレーションの定着に向けた取り組みができるよう、2年目（以下、アドバンスコースとする）コースを開催した（表5に示す）。参加者は、ビギナーコースには病床数400～500の3施設から、3～20年目の看護師7名と、病棟保育士1名の計8名の参加があり、アドバンスコースには、病床数400～450の2施設から計3名の参加があった（表6に示す）。

ビギナーコースの内容は、平成25年度と同様にした。その結果、ビギナーコースに参加した参加者は、子どもの意志を尊重せずに医療処置が行われている病棟の現状に驚いたことや、プレパレーションが病棟に定着しない課題を抱え、検討会を通して学んだことを施設へ持ち帰りたいという思

いが語られた。各施設の事例紹介では、作成途中のツールに対し他施設の参加者から助言を得たり、医療処置を受ける子どもにとって何が重要であるかということがディスカッションできた。また、参加者自身が子どもの援助時に対象に応じた説明を意識して行えるようになったという変化がみられた。

アドバンスコースは1年間に6回開催し、内容は、参加した2施設からの課題が、共通して採血を受ける子どもへのプレパレーションであったため、「採血DVDの作成」をアドバンスコースの1年間の目標とし計画した。その結果、DVDの内容は、施設ごとの採血の現状から挿絵や言葉、写真、ナレーションなどについて検討し、施設ごとに処置室や使用物品の実際の写真を挿入するなどの工夫がみられた。また、研究者と参加者でメールでのやり取りを取り入れながら作成し、DVD制作業者へ発注、確認、修正、完成へと進めた。完成したDVDは、2施設とも3分程度で、オルゴールのBGMを取り入れ、子どもが関心を示す内容に仕上がった。DVDの活用については、現段階では対象者が少なく評価できていないため、次年度に向けて、活用マニュアルや評価項目等の検討が課題となった。

今年度の成果を、平成27年7月に千葉県で開催された、第25回日本小児看護学会学術集会において「総合病院におけるプレパレーションの普及に向けて」のテーマセッションを行った。セッションは、「プレパレーション検討会」立ち上げの経緯、及び2年間の取り組みについて紹介した（写真1）。また、話題提供者として、参加者である看護師2名が、総合病院小児病棟における看護師と医療保育士との連携について、および2年間検討会に参加しプレパレーションの普及について感じることに紹介した。病棟で使用しているプレパレーションツールの提示や、採血を受ける子

表5 平成26年度アドバンスコース 活動概要

回	時期	テーマ	内容
1	5月	採血DVDを作ろう①	・2施設共通「採血DVD」の作成検討
2	7月	採血DVDを作ろう②	・採血の各施設における現状報告、DVD案作成
3	8月	採血DVDを作ろう③	・各施設のDVD案の検討（挿絵・言葉・写真・ナレーションなど）
4	9月	採血DVDを作ろう④	・各施設のDVD案の検討（挿絵・言葉・写真・ナレーションなど）
5	12月	採血DVDを作ろう⑤	・DVD発注、内容確認、修正、完成、発送
6	3月	採血DVDを作ろう⑥	・DVD使用後の報告、今年度の振り返り

どものプレパレーションとして作成した「採血DVD」の映像紹介など、病棟の現状と課題を話した(写真2)。テーマセッションには、約80名の参加者があった。また参加者からは、病棟と外来では子どもの病状が異なるため、どのようなプレパレーションを行えばよいのか悩んでいることや、プレパレーションを実施した子どもの評価をどうすればよいのかなどの質問があり、限られた時間の中で活発な意見交換ができた。

IV. 考 察

1. 滋賀子どものプレパレーション検討会の開催について

A県内の小児の入院環境をもつ総合病院に勤務する看護師を対象に、プレパレーションの学習

会を開催し、プレパレーションの定義や研究報告などの情報提供をしたことは看護師の認知向上ができ、子どもの権利を尊重した看護の意識づけにつながったと考える。しかし、1施設ごとに看護系大学の研究者らが訪問するスタイルの学習会では、プレパレーションの定着に時間がかかること、また小児だけが対象ではないため、参加した看護師の学習意欲にも差が生じていた。そこで、平成25年度から検討会の参加者を総合病院のプレパレーションに関心がある医療者にしたことは、参加者のモチベーションが高く、学習意欲が高い環境で検討会が開催できたと考える。

平成25年度からの「滋賀子どものプレパレーション検討会」の参加者は、経験年数2～3年と10～20年の層に分かれていた。プレパレーションに関する看護基礎教育は、子どもの権利の批准後

表6 平成26年度参加者の属性

コース	所属施設(総床数)	参加者人数	参加者内訳	
			職種	経験年数
ビギナーコース	A病院(450床)	3名	看護師	3年
			看護師	3年
			看護師	20年
	D病院(400床)	3名	看護師	2年
			看護師	2年
			看護師	2年
アドバンスコース	F病院(500床)	2名	看護師	7年
			医療保育専門士	10年
	A病院(450床)	1名	看護師	21年
	D病院(400床)	2名	看護師	4年
			看護師	4年



写真1 第25回日本小児看護学会学術集会テーマセッションの場面



写真2 第25回日本小児看護学会学術集会テーマセッション（採血DVDの紹介）

導入され、卒業研究においても取り組まれてきている（上山，2008）。また、看護学生は講義・演習で学んだプレパレーションに関する知識を、小児看護学実習で医療処置を受ける子どものケアの体験を通して子どもを尊重する重要性を学んでいる（森；永田，2011）。検討会参加の経験年数2～3年の看護師は、看護学生の時代にプレパレーションを学んできており、プレパレーションに関する認知は高いが、所属施設においてプレパレーションが実施されていない現状を違和感として感じていた。そのため、看護師の経験年数は浅いが、施設の現状から医療処置を受ける子どもと家族のために何が課題であるかを見出すことができていたと考える。一方、菊池（2014）は、中堅看護師のキャリア発達に必要な要素は「好奇心」と「継続」であると述べており、多忙な業務の中にも関心事を持ち、そのことが継続できてこそキャリア発達につながるといえる。検討会参加の経験年数10～20年の看護師は、看護の経験からプレパレーションに関心を持って検討会に参加しており、看護系大学の研究者から新たな情報を得ることで、さらなる学習意欲につながったと考える。

「滋賀子どものプレパレーション検討会」は、ビギナーコースでプレパレーションに関する基礎的な知識を習得し、アドバンスコースでさらに継続して課題に取り組むことができ、参加対象者に応じてプレパレーション定着に向けたサポートができたと考える。また、参加者は総合病院という同じ環境下であるため、検討会で語られた内容に共感し、日々の看護をリフレクションすることができ、プレパレーション定着に向けて自己の課題を明確にすることができたと考える。また、アドバンスコースは、ビギナーコースで見出した自己の課題および施設の課題が引き継げるプログラムであり、看護系大学の研究者らが継続して支援するためプレパレーション定着に向けた取り組みがしやすいといえる。

2. 滋賀子どものプレパレーション検討会の今後の課題

「滋賀子どものプレパレーション検討会」は、ビギナーコース・アドバンスコースを設定し2年が経過した。ビギナーコースは、年間4回を継続する内容であり、検討会を通して参加者のプレパレーションに対する認知の向上につながられた。

しかし、限られた時間内での進行であり、参加者のニーズに内容が応じているのか評価できておらず、参加募集の段階で参加の動機やニーズなどを調査する必要がある。

また、プレパレーション検討会の成果を学会発表や論文投稿をすることで、総合病院におけるプレパレーション定着に向けた取り組みを発信することができた。平成27年の第25回日本小児看護学会学術集会でのテーマセッションでは、約80名の参加がありプレパレーションに対する関心が高いことが伺えた。総合病院にプレパレーションを普及し定着するために、看護系大学の研究者とプレパレーションに関心をもつ医療者が協働することが必要であり、今後プレパレーション検討会のプログラムを検討していくことが課題である。さらにプレパレーション検討会の参加者が、ビギナーコースとアドバンスコースを継続することで、施設においてプレパレーションのアンバサダー的役割が担えるため、プレパレーション検討会のメンバーの募り方とその後のサポート体制についても検討する必要がある。

平成27年度の「滋賀子どものプレパレーション検討会」は、ビギナーコースに5施設から看護師10名、アドバンスコースに3施設から看護師7名および医療保育専門士1名の計8名の参加があった。滋賀県内の総合病院においてプレパレーションが定着し、子どもと親がよりよい医療が受けられるような活動を今後も目指したい。

文 献

- 平田美紀，流郷千幸，鈴木美佐，他（2015）：プレパレーション検討会に参加した総合病院小児病棟の看護師の認識の変化，聖泉看護学研究，4，1-9。
- 平田美紀，流郷千幸，鈴木美佐，他（2014）：総合病院小児病棟のプレパレーション定着に関する研究，第34回日本看護科学学会学術集会講演集，605。
- Hirata, M., Ryugo, C., Suzuki, M. (2013) : Protection the right of child patients undergoing treatment at general hospitals, International Council of Nurses.
- 平田美紀，流郷千幸，鈴木美佐，他（2013）：総合病院小児病棟および外来におけるプレパレーションの現状と課題，日本小児看護学会第23回学術集会講演集，234。
- 平田美紀（2013）：子どもの採血場面における親の付

- き添いに関する国内における看護研究の現状と課題, 人間看護学研究, 11, 31-37.
- 平田美紀, 奥津文子, 古株ひろみ, 他 (2013): 2歳未満の子どもの採血に付き添う体験をした母親が抱く思い, 日本看護研究学会雑誌, 37 (3), 297.
- 細野恵子 (2010): 外来で母親の付き添いのもとに座位で採血あるいは点滴を受ける幼児の対処行動, 日本小児看護学会誌, 19 (3), 88-94.
- 石垣幸子, 但木由佳, 澤田奈穂美, 他 (2005): 絵本を用いたプリパレーションによる対処行動の比較, 日本看護学会論文集: 小児看護, 35, 137-139.
- 菊池沙織, 神田清子, 藤本桂子, 他 (2014): 看護職員のキャリア発達のためのキャリア計画・支援の実態, 群馬保健学紀要, 35, 1-9.
- 小林八千代, 星直子, 霜田敏子, 他 (2008): 入院時に対する看護師の意識と実践—子どもの最善の利益に焦点を当てて—, 順天堂大学医療看護学部医療看護研究 4 (1), 10-19.
- 森浩美, 澤田みどり, 岡田洋子 (2011): 検査・処置を受ける子どものケアを体験した看護学生の学び—小児看護学実習終了後のレポート分析から—, 日本小児看護学会誌, 20 (1), 25-31.
- 永田真弓, 廣瀬幸美, 氏家圭子, 他 (2011): 臨床看護師による子どもへのプレパレーションを取り入れた授業における学生の学び, 日本小児看護学会誌, 20 (1), 17-24.
- 及川郁子 (2012): チームで支える! 子どものプレパレーション, 20-21, 中山書店, 東京.
- 鈴木美佐, 流郷千幸, 平田美紀, 他 (2012): 総合病院外来で小児の採血に関わる看護師のプレパレーションに関する認知, 第32回日本看護科学学会学術集会講演集, 441.
- 鈴木美佐, 流郷千幸, 平田美紀, 他 (2013): 総合病院病棟で小児の採血に関わる看護師のプレパレーションに関する認知, 第33回日本看護科学学会学術集会講演集, 520.
- 戸井紀子, 川原優子, 秦香苗 (2008): 紙芝居を使った採血のプリパレーションによる患児の反応と母親の思いの変化, 奈良県立三室病院看護学雑誌, 24, 1-6.
- 上山和子 (2008): 小児看護に関する卒業研究の動向, 新見公立短期大学紀要, 29, 137-141.
- 渡邊智美, 北飯ふみ (2006): 子どもの心理的混乱・恐怖心の緩和を試みて 処置中に音楽を使用し, その心理的効果を考察する, 日本看護学会論文集: 小児看護, 36, 23-25.
- 吉田美幸, 鈴木敦子 (2009): 検査・処置を受ける幼児後期の子どもの必要としている母親の関わり, 日本小児看護学会誌, 18 (1), 51-58.
- 流郷千幸, 古株ひろみ, 平田美紀, 他 (2015): 総合病院におけるプレパレーションの普及に向けて, 第25回日本小児看護学会学術集会, テーマセッション, 16-17.

